

紀要の新たなる飛躍に向けて

日本医科大学 新丸子主任

香川 浩

日本医科大学基礎科学部門では教員の研究成果を発表する媒体として、1980年より「日本医科大学基礎科学紀要」を発刊してまいりました。大学から資金援助をいただき、本年度31年目、第40号を刊行するに至っております。

以前に私も紀要編集委員をさせていただき、一時期代表も務めました。当時も紀要を価値ある物にする目的で、査読制度、配布先、体裁など様々なことを討議し、決定しました。外部査読も検討しましたが、実現には至りませんでした。私は体裁係として、書式を決め、皆と協議して、体裁の統一を図りました。

その後も、多くの委員が係わり、多くの投稿があり、紀要の充実がなされてきました。一時期は、1年に2号を発行しておりましたが、教員数の減少もあり、最近では年1号のペースで100ページ前後の学術論文雑誌として発刊し、全国150ほどの大学・研究機関に送付しております。また、1982年にISSN(国際標準逐次刊行物番号)を取得して以来、毎巻を国会図書館に納めております。

第40号の発刊を機に編集委員会に新たな委員が参加し、学内外に基礎科学部門所属教員の研究成果をより広く知っていただけるよう、紀要のさらなる充実を図っております。水準と信頼性を一定以上に保つため、査読は以前よりも徹底したものとなりました。ただし、分野によっては内部に適切な査読者が得られないため、全分野での適正な査読に向けて外部への依頼も検討しております。

武蔵境地区への移転も視野に入れ、学内や法人内での周知はもとより、外部査読の導入や論文のインターネット配信なども含め、新たな時代に対応した研究成果の公表のあり方を今後1、2年かけて整える予定です。

紀要は、人文社会科学の研究者にとっては重要な研究発表の場の1つです。自然科学の研究者にとっても、総説、研究ノート、教育報告、などを発表する場としては十分に価値があります。教員の方々には、本紀要の水準を更に高めるべく、今後も奮って投稿していただきたいと思っております。